

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700613		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	恵和会グループホーム どんぐり 第2ユニット (2階)		
所在地	北海道河東郡音更町木野西通8丁目1番地14		
自己評価作成日	令和2年2月15日	評価結果市町村受理日	令和2年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・認知症の行動や周辺症状の理解を深め、適切な対応にて症状が緩和し、ホームでその人らしい生活ができるような介護を目指している。</p> <p>・医療法人が運営するグループホームであり、訪問診療や、看護師チェックなどで連携を図り体調不良の場合、報告、相談ができ、早めの対応にて悪化しないように支援している。</p> <p>・かるた、ビンゴゲーム、塗り絵、風船バレーなどの馴染みのレクリエーションを楽しんでいただくとともに、記憶、生活に関わるオリジナルのすごろくゲームを作成し、昔の記憶を呼び戻すとともに、新しい情報による刺激により認知症の進行を緩やかに出来るように努めている。また、洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、もやしのひげ取りなどの家事手伝いが生活リハビリとなり、ラジオ体操、機能訓練など体力、筋力が低下しない様に支援している。</p> <p>・町内会のお花見、町内会の自主防災会、町内会企業のお祭り、近隣の保育所との交流、フラダンス、ひよっこ踊りなどボランティアの協力を得て、地域と関わり合い、つながりを継続している。</p> <p>・防災避難訓練、医療安全、介護用品の研修、身体拘束廃止、感染委員会などに参加、利用者様の安全と職員の介護向上に努めている。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=0194700613-00&amp;Se">mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=0194700613-00&amp;Se</a>
-------------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年6月26日(令和元年度分)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念を掲げ、その人らしい生活が送れるように支援している。 理念の他に、毎月の職員の目標も掲げ、カンファ時に反省、意見交換を行い介護に反映できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、花見や資源回収、自主防災会などの参加、町内会に新聞の配布を行いホームの様子を知っていただくなど地域との交流を継続している。 又、行事の時、フラダンス、ひよっこ踊り等地域のボランティアのご協力を積極的に得て、地域とのつながりに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元短大生の実習受け入れを行い、グループホームの生活を知っていただくと共に認知症介護の実態も見て頂いている。 時折、どんぐりホームの新聞を町内会に配布し地域の方々に認知症、グループホームのご理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を開催し、事業所の取り組み状況や職員の異動や行事など各報告を行い、ご意見があれば改善を試みている。町役場職員に参加していただき、介護状況、情報を得ることでサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の介護保険課職員や町内会役員、民生委員が運営推進会議のメンバーを務めており、様々な意見や要望の聴取し、情報交換を行い、指導や助言をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	独歩困難な利用者には、移動の際はスタッフを呼んでいただくように声掛けを行っているが、認知症の為に呼んでいただけず、転倒防止の為にご家族様に説明、ご理解をいただきコールマツトを使用している。 事業所の施設職員が集まり定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、正しい知識を持ち、ケアを行えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	危険な場合を除いては身体的、精神的虐待はあってはならないと考え、職員間で認識している。 法人の介護事業所合同の身体拘束廃止委員会に各ユニットから1名ずつ参加、身体拘束、虐待感染などの研修も積極的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人の実習受け入れをしていたが、昨年は行っていない。以前、後見人制度を利用して入居者がおり、制度について学ぶ機会があった。今後も研修など学ぶ機会があれば参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の時には十分な説明と同意、理解を得ている。又、変更等の場合は、速やかな説明と同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、生活の様子を報告し、受診の同行、ご家族様親睦会にて利用者様との関わりが途切れず、職員と共に支えて関係を維持している。又、意見箱の設置により、ご家族様の意見、苦情、提案が表せる機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1階、ユニット会議にて、職員が意見を提案できる機会をもうけ、運営に反映できる体制はできている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は、介護職員処遇改善交付金等の制度を積極的に活用し、給与水準の向上、労働時間の改善に努め、職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護レベルの向上を目指し、各種研修会の参加を促し、参加できなかった職員にも研修報告を行うことで研修内容、情報が得られるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業所4部門合同の研修を年2回、身体拘束廃止委員会を年4回実施し、同業者と交流する機会を作り、介護の質の見直し、向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様、関係医療機関より、様々な情報をいただき、ご本人の状態の把握を行い、良好な関係作りと必要なサービス提供を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様から、困っていること、不安な事や相談を細かく聞き取り、信頼関係を築き、より良いサービスが提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族様が介護サービスやホームに対して、望んでいる介護を聞き取り、その方の状態を見極め、必要としている介護を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の困難になっている事柄に手を差しのべるだけでなく、洗濯物たたみ、テーブル拭き、盛りつけなど職員が大変だからと自主的に手伝われ、助け合う関係が出来ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の状況、介護状態を知っていただくため面会の時やお手紙でホームでの出来事を密に報告している。 又、病院の受診の同行、年末の外泊、ご家族様がお仕事がお休みの時などは、買い物や温泉に出かけるなど、本人と家族のきずなを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取り、電話での連絡が引き続き行なえるように、投函などの支援を行い、親しかったご近所様の面会やご兄弟に会いに行くなど関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の生活状態を把握し、入居者が孤立する事がないように、レクリエーションなどの声掛けを行っている。問題が起きた場合には、職員が仲介役となり、良好な関係が保たれるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院になった利用者様のお見舞い、相談、支援を行い、他の施設に移られた入居者様が、その後、落ち着いて生活できているのか面会なども行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に重きを置き、ご本人だけでなくご家族様にご要望を聞き、相談しながら介護にあたっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にフェースシートを書いていただき、面会時に情報を得たり、ご本人との会話の中から生活歴など情報の収集に努め、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の関わりの中で、変化や状態の観察を行い、ご本人のできること困難な事の見極めを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化が見られた時には、ご家族様、管理者、職員間で情報を共有し、適切なケア、必要なケアなどの見直しを行い。職員、担当者より意見を聞いて、現状に即した計画の変更を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき、ケアの様子をケース記録の作成、職員の連絡ノート等により、毎日の申し送りで情報の共有を行い、更に重要な事は業務日誌などに記入、口頭で管理者に相談し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急な医療機関の受診や車椅子での受診等必要な時は同行し、生活用品、嗜好品の購入などサービスの多機能化を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フラダンスやひよっとこ踊りのボランティアや避難訓練時には消防署員にご指導をいただき、お花見等で町内会の方々との交流を深めるなど地域資源を活用しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医と連携を取りながら、受診時に同行したり、お手紙にて状態の報告、相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列病院より週1回の訪問看護師の派遣があり、健康チェックを受けている。事前に用紙にバイタルや気になることを記入し、看護師より助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、相互の情報の提供を行い、ご家族様と以後の対応について話し合い、安心して治療に専念できるようにしている。長期入院になり、認知症が悪化する場合は、早期に退院できるように医師に相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期においてはご本人はじめ、ご家族様の要望を受け入れつつ、ホームのできることを主治医、協力医療機関と慎重に協議し対応、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による救命救急講習で応急手当や心肺蘇生法、AEDの取り扱いを学び、実践力を身に付けて、緊急時の対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を実施している。震度4以上の地震の時にはホームに集合することが義務づけられている。災害が起こった時の為、懐中電灯、カセットコンロ、飲料水、食品の備蓄を行い随時点検し使用できる状態を保ち、職員全員が、避難場所を周知している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	過去の経歴や性格、人となりをつまえて、一人一人の人格を尊重した声掛け、対応、介護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動や表情から思いや希望をくみ取ることができるよう心がけている。ご本人主体の声掛けを行い、自己決定ができるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の心身の状態に合わせて支援している。TVを見て過ごす方、レクリエーションが好きの方、散歩に行きたい方、ゆっくり食事を摂りたい方等、生活にメリハリをつけながらもご本人のペースで生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、美容師が来てカット、カラー、パーマを行い、入浴時にはできるだけご本人が納得できるような髪型に整え、身だしなみやおしゃれの意欲が薄れない様に支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のペースで食事を摂ってもらうように、量や好き嫌い又飲み込み状況に合わせた食事形態の工夫を行っている。誕生日や行事では本人の好みを聞き祝膳を用意している。お手伝いできる方には、副食の盛り付けやテーブル拭き、下膳などをしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立を利用して、日々の食事を作っている。飲み込みが悪い方にはミキサー食、刻み食など食事形態の工夫や食事が摂れない方には経管栄養剤の利用、ご本人が希望する場合は梅干しなどで食事を摂ることも出来る。又、水分摂取の促しを行い、摂取できない時は、ゼリー、嗜好品などで摂ってもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っていただき、夜間は、義歯を預かり、消毒を行い、介助が必要な方は、職員が口腔ケア介助を行っている。訪問口腔ケアや訪問歯科による定期的な治療も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせた声掛け、介助を行い、尿意、便意がない入居者様は、排泄時間を把握しトイレ誘導にて便座に座っていただき排泄促し、夜間の歩行状態が悪い方はポータブルトイレを使用していただき転倒防止に努め、一人一人の排泄の状態、状況により、必要な介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人に合わせた、内服による排便コントロールを行い、毎日、排便確認を行い、便秘時にはその日の職員に伝え、情報を共有し、排便コントロールにて気分よく排泄が行え、便秘による不快がなくなるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全に入浴されるように見守り、介助を行うと共に、入浴中は、皮膚などの全身の観察を行い、昔話や子供の話を傾聴しながら、ゆったりとした気分で入浴していただいている。入浴拒否がある場合には、ご本人の性格などを把握しながら対応に努め入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕刻、帰宅願望や物盗られ妄想など不穏時には、話を傾聴し、ご本人が納得できる、安心していただけるような対応を心がけ、気持ちよく眠ることができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人が服用しやすいように粉碎にしたり、半分に割るなどして服用していただいている。服薬時にはきちんと飲みこめているか最後まで見守りを行っている。服薬後は状態の様子観察を行い、主治医に服薬後の様子を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、たたんだり、テーブル拭き等個人の能力にあった役割を持ち、充実した生活が送れるように支援している。趣味を持たない方にはカラオケやゲーム、散歩など生活に変化を持つことで気分転換ができるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場の外出は、雪道での転倒、インフルエンザの流行などで外出は控えめになるが、夏場は外出行事で職員が下見に行き普段行けそうにないところ等などに外出、外食している。日常では天気の良い日には散歩に出かけて、ご家族様と買い物に行かれる方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣い預かっており、その都度必要なものがあれば、購入できるようにしている。全員がお金を所持しているわけではなく、使用はしないが持っているだけで安心できる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ホームより利用者様の近況をお知らせするお手紙を出している。電話をかけたいとの要望にご家族様と連絡を取られたり、自ら携帯電話で連絡を取っている方もいる。手紙を出す方は職員が投函の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分や居室の清掃に心掛けている。共用部分では、毎月季節の飾り物、花、行事の写真などを展示し、季節感を取り入れている。利用者主体で音、光、温度などに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、ベンチがあり、気の合った利用者同士で談笑されたり、自由に過ごせるような居場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品などを持参していただき、早くホームに馴染んで、安心して過ごせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能の低下に合わせて、安全で自立した生活を送れるようにするために車椅子や歩行器での移動も可能な作りになっている。		